

# 「わいわいタイムス」 休刊のお知らせ

2010年2月に「わいわいタイムス」創刊号を発行して以来、7年間に渡って、上関町の皆様さまさまざまな話題を提供させていただきましたが、諸般の事情により、今月号をもちまして、休刊とさせていただきます。読者の皆様、長い間ご愛読ありがとうございました。



## ◎創刊時の想い

振り返ってみると、7年前、過疎と高齢化が県内一の速さで進んでいた上関町。そして、原子力発電所の問題が原因で住民同士の対立が深く残っていた上関町。この対立があるがために、町に住みにくくなり、さらに過疎化に拍車がかかるという悪循環も起こっていました。

私たちは、「この対立の溝を少しでも埋めることはできないのだろうか」「みんなで楽しくまちづくりができるような上関町にできないだろうか」と考え、この「上関まちづくり新聞 わいわいタイムス」を発行することにしました。

たった二人の編集部、毎月たった一枚の新聞ですが、上関町の「みんなが幸せになれるまちづくり」のつなげたいという想いと願いを込めながら、7年間発行を続けてまいりました。お年寄りの方でも読みやすいようにと、大きな文字で、できるだけ分かりやすい言葉を使うことを心掛けてきました。

試行錯誤を繰り返しながら、そして毎月原稿の締切に追われながら、ときには徹夜の作業になってしまっこともありました。

それでも、これまで続けることができたのは、「わいわいタイムス」の発行に協力してくれた多くの方々、そして、読んでいただいた多くの読者の皆様がいてくれたからこそだと思います。読者の方々から、「分かりやすくいい」「いつも楽しみにしている」「あの記事はとてもよかった」というような褒めの言葉をいただいた時は、大きな励みになりました。一方で、創刊当初に「みんなと一緒にまちづくりをしよう」という記事に対して、「原発のリスク、今まで散々嫌なことをされて対立してきたのに、今さら仲良くするのは無理」という意見もいただき、原発問題での対立の根深さを改めて思い知らされることもありました。

## ◎上関町の現状

この7年間、さまざまな出来事があり、上関町を取り巻く環境も大きく変化しました。特に、6年前に発生した東日本大震災と、それに伴う福島第一原発の事故は、上関町にも大きな影響がありました。この事故によって、上関原発の工事は中断され、その後の見通しは未だに不明確なままです。このため、町は好むと好まざるに関わらず、「原発に頼らないまちづくり」にも力を入れることになり、現在に至っています。

特に近年は「観光によるまちづくり」にかなり注力されていて、「道の駅 上関海峡」が開設されてからは観光客が飛躍的に増加しました。もともと、上関町は風光明媚で豊かな自然に恵まれており、歴史的遺産も多く存在しています。祝島の「石積み」の練堀「や」平さんの棚田「上関の」城山歴史



公園の河津桜、室津の「四階楼」なども観光客に人気があり、今後の取り組み次第では、さらに観光客が増加することが期待されます。また、道の駅の開設により、新鮮な魚が買いやすくなったり、町内のいろんな人がいろんな物を販売して、収入を得ることができるようになりました。お菓子などのおみやげ品も開発されるようになり、少しずつ町に活気が出てきたような気がします。

## ◎7年間の記事を振り返って

さて、この7年間に「わいわいタイムス」に掲載した記事を振り返ってみましょう。まずは、「まちの宝物」「まちの特産品」「上関てくてく散歩」などのシリーズをはじめとして、上関町をPRするための記事をたくさん書かせていただきました。これは町外の人に上関町をPRする目的と同時に、上関町民の皆さんにも、自分たちの町の良さを見直して欲しいと思ったからです。町内、いろいろな場所に取材に行き、いろんな人にお話を聞かせていただきました。この取材を通して、上関町が「何も無い寂れた田舎町」ではなくて「いろんな宝物が詰まった田舎町」であることを、私自身も再認識することができました。

また、日本各地のまちづくりの実践例も数多く取り上げました。できるだけ、上関町のような小さな町で行われた取組みを選びました。そこには、それぞれの地域で工夫を重ね、その地域に合った方法を発見し、住民の人々が楽しくまちづくりに参加されている姿が多くみられました。町民の皆さんや町役場の皆さんが、これらの記事を読まれて、少しでも刺激を受けたり、参考にされたりすることがあったら嬉しいですね。

私たちが編集部が独自の視点で、上関町のまちづくりへの提案を行ったことも何度かありました。「まちづくり」にチャレンジ「町の出身者は頼れる応援団」「Uターンのすすめ」「自然エネルギーについて学ぼう」「上関町の魅力を伝える体験ツアー」「離島航路を考える」等々。ふるさと納税のPR、風力発電所の建設、祝島航路の新造船など、その後上関町として取り組むことになったものもいくつかあり、記事にした甲斐があったと思っています。

意外と人気があったのが食べ物や料理の記事です。「あんな効果があったんじゃね」「あの作り方なら簡単じゃね」と、お母さん方から感想をいただき、町内のお母さん方にも楽しんで読まれていることが分かり、嬉しかったです。

## ◎おわりに

「わいわいタイムス」を読んでいただいた上関町の読者の皆さん、定期購読をしていた皆さん、ありがとうございます。そして、いろいろな面で「わいわいタイムス」を支えて下さった全ての方に感謝いたします。

最後に、2013年5月号の「スーチャーさんからのメッセージ」という記事の中で書いた文章を再度紹介して、編集部から上関町民の皆さんへの最後の言葉とさせていただきます。

『私たち一人ひとりが、町の再生に対して何ができるか考え、小さなことでも実行すれば、状況は少しずつ変わっていきます。上関町の再生には、私たち町民が自信と勇気を持って動くことが必要なのです。』



◎「わいわいタイムス」は今月号をもちまして休刊となります。長い間、「愛読いただき、ありがとうございます」でした。またいつかお会いできる日まで。